

1. 基本情報

評価対象年度 (29 年度)

施策コード	131		施策名	人権尊重・平和の推進				
将来像	1	安全でうるおいのある暮らしができるまち(「暮らし」の分野)						
まちづくりの基本目標	13	お互いを尊重し合うまち						
主担当部	企画部		主担当課	秘書広報課		主担当係	広報広聴係	
担当者	今村 広司		役職	企画部長		内線	210	
関係課	企画課	男女共同参画センター	地域包括ケア推進課					

2. 施策の方向

10年後の姿	地域のなかで、人権尊重や平和希求の意識が広がり、年齢、性別、障害、国籍などに対する差別や偏見を持たない人たちが、互いに認めあい、助けあって暮らしています。							
施策の方向性	1	国籍や文化の違いを受け入れ、認め合う、多文化共生社会の実現をめざします						
	2	人権意識の啓発を進めます						
	3	平和について啓発し、平和を希求する意識の高揚を図ります						

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

No.	事務事業名	実行計画	施策の方向性	担当課	平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
0102010807	平和祈念事業	対象	3	企画課	1,201	1,237	1,281
0102010816	国際交流事業	対象	1	企画課	200	200	200
0102010403	市民相談事業	対象	2	秘書広報課	2,157	1,394	1,872
総事業費(施策の合計)					3,558	2,831	3,353

4. まちづくり指標

指標情報				平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成32年度	平成37年度	
①	名称	国際交流事業の参加者数		目標値	730	740	740	800	
	説明		単位 人	実績値	825	1,163	/		
	抽出方法	清瀬国際交流会報告書		達成率	113.0%	157.2%			
②	名称	この一年で戦争の恐ろしさや平和の大切さについて周りの人と話したり、考えたりしたことがある人の割合		目標値	—	—	—	51.0	56.0
	説明		単位 %	実績値	—	46.4	/		
	抽出方法	市政世論調査(平成29、32、35、38年度実施)		達成率	—	—			
③	名称	人権を身近なこととして意識している人の割合		目標値	—	—	—	53.0	57.0
	説明		単位 %	実績値	—	49.0	/		
	抽出方法	市政世論調査(平成29、32、35、38年度実施)		達成率	—	—			

5. 評価(平成29年度実績に対する)

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果 (「3. 構成事業の 状況」「4. まちづ くり指標」)に対す る評価	総合評価 (成果、投入財源等を 総合的に評価)	維持
<p>多文化共生社会の推進のため、清瀬国際交流会が主催する国際交流事業や日本語教室などの事業の実施に対して補助金を交付して活動を促進している。国際交流事業の平成29年度参加者実績は1,163人となり交流と相互理解の機会が広がっている。また近隣4市及び所在するNPOと連携協力し、多文化共生に係る啓発事業を6回実施することができた。この分野に投入できる市の経営資源は十分ではないが、他の主体と連携協力を図ることにより、施策効果を高めることにつながっている。</p> <p>また、平和意識の醸成に向けては、市民と協働して実施している平和祈念フェスタ等の啓発事業のほか、ピースエンジェルズ派遣事業を実施し、戦争の悲惨さや平和の大切さを考えるきっかけを提供している。平和祈念フェスタの平成29年度参加者実績は394人となり(H28:293人)となったが、参加者の年代は50歳代以下が33%、新来場者は32%と少ない(いずれもアンケート回答者の比率)。今後は、特に若い世代や、多様な人々が興味・関心を持つことができる事業展開により、効果的な普及活動を進める必要がある。</p>		

※順調「10年後の姿」の達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
維持「10年後の姿」の達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
停滞「10年後の姿」の達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

外部要因	状況	外部要因に対する評価	評価理由
市民ニーズ の状況	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運の高まりに合わせて多文化共生への関心が高まっている。	1. 施策遂行に役立つ・有利	多文化共生の考え方に理解を得やすい状況であるため。
将来人口 の推移	戦争体験世代の高齢化が進んでいる。	2. 施策遂行に不利 3. 施策の必要性を高める	戦争体験者からの伝承ができなくなる。
民間企業・NPO ・市民の動向	平和推進、多文化共生推進の分野では市民の活動が活発である。	1. 施策遂行に役立つ・有利	協働して事業を推進できる。
技術革新 の動向	外国人とのコミュニケーション支援アプリが提供されている。	1. 施策遂行に役立つ・有利	対応言語の拡大や機能の充実が図られており、外国語を話すことができなくても、容易にコミュニケーションを図る基盤となり得る。
その他	世界的にテロ行為が頻発している。	1. 施策遂行に役立つ・有利	平和に関する危機感を身近に感じる機会となっている。

7. 施策を進める上での課題

施策を進める 上での課題	平和祈念フェスタ等の啓発事業に、これまで参加していない市民層の参加を促進し、平和意識を広く啓発する必要がある。		
① 関連する 事務事業名	平和記念事業		
現在の取組 状況	平和祈念フェスタ等の啓発事業は、市民で組織する「平和祈念展等実行委員会」が企画・運営を行い開催している。事業の企画は市民を中心に、各委員の経験やネットワークを生かしながら検討している。多様な市民、特に若い世代の市民の啓発の必要性について課題認識を共有しているが、成果につながっていない。		
平成31年度 以降の取組	平和祈念フェスタなど主催事業の目的をより意識することにより、課題を明確にすることができるように、実行委員会を運営する。また、大学生(ピースエンジェルズのOB)が実行委員会に加入するため、若い世代の意見を生かした事業を企画する。		
施策を進める 上での課題	いじめ、子どもや高齢者への虐待、LGBTなど、多様化する人権問題に対応していくためには、関連する部署が連携する必要がある。		
② 関連する 事務事業名	市民相談事業	男女共同参画センター運営管理事業	
現在の取組 状況	人権擁護委員による人権相談やアイレック相談などの相談事業に取り組んでいる。		
平成31年度 以降の取組	人権擁護委員による人権相談は、相談実績があまり多くない。これは、人権擁護委員の役割などについての周知があまり行き届いていないことも要因と考えられるので、機会を捉えて周知を図る。また、地域包括ケア推進課等との連携を図る。		